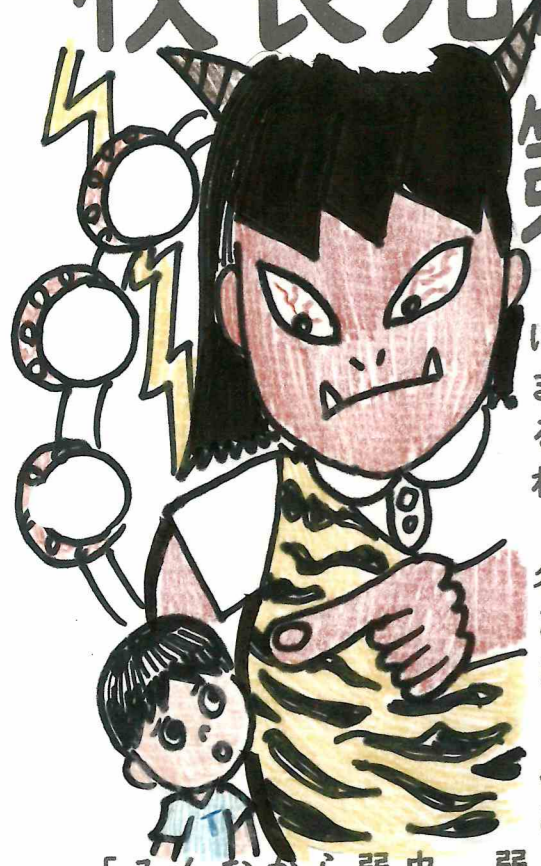


校長先生の初恋物語

第5話 ダンプさんの告白



ダンプさんは、怒っていました。音楽室に入ってすぐ、とっくんの方をふりかえりましたが、その顔は真っ赤っかでした。まるでつのがはえた赤鬼でした。赤鬼は、こわい声でとっくに言いました。

「とっくん、どうして投票の時に、自分の名前を書かないのよ。」

とっくんが、自分の名前を書かなかったことを怒っていました。

「わたしは、とっくんの名前を書いたんだよ。」

あの一票はダンプさんだったのです。

「みんなから弱虫、弱虫って言われて、とっくんは悔しくないの。」

私は、とっくんが好きなんだから。もっとがんばってよ。」

突然の、愛の告白です。ダンプさんは、とっくんのことが好きだったのです。でも、とっくんは、昔から、泣き虫で弱虫と思われてしまうようなキャラクター。うじうじしているとっくんを、なんとかしたいとダンプさんは思っていたのです。だめでもいいから、学級委員でもなんでも挑戦して、みんなの前でどんどんがんばれる人になってほしいと、ダンプさんは本気で思っていたのです。ダンプさんは、とっくんをいじめていたわけではなかったのです。

ダンプさんは、愛の告白をすると、そのまま音楽室から出て行きました。残されたとっくんは、びっくりして、体が固まって動けませんでした。初めて女の子から好きと言われて、うれしい気持ちもあるのですが、相手は、ダンプさんです。とっくんもみんなといっしょで、ダンプさんのことはこわいと思っています。ですから、素直にうれしいという気持ちにはなれませんでした。

とっくに投票してくれたあの一票が、ダンプさんの愛の証。そのダンプさんの一票がきっかけとなり、そのあととっくんは、だめ



でもいいから、少しはがんばってみようと思えるように変化していったのです。とっくんに勇気をくれた一票です。

ダンプさんは、その後、とっくんのところに来なくなりました。「なさないほくのことが、きらいになってしまったのかなあ。」と、ちょっぴりさみしくなりました。

でも、ある事件をきっかけに、ダンプさんと、とっくんは、とっても仲良しになったのです。その事件を起こした張本人は、きんに君でした。

きんに君は、筋肉もりもりの小学生です。空手道場に通っていて、体をきたえているからです。運動も得意でしたが、なによりも、人を笑わせるのが大好きで、休み時間はいつもブルースリーのものまねをして、みんなを楽しませてくれました。女の子の人気ナンバー1が足長君としたら、きんに君は男の子からの人気ナンバー1でした。

そんなきんに君がいつものように、ブルースリーのものまねをして、

「アチョーッ。」

と叫びながら空手のポーズをとっていました。きんに君のおもしろい空手のポーズに、男の子たちは大笑いしてました。みんなにうけていることに気持ちよくなってしまったきんに君は、そのあと調子にのって、教室の後ろのロッカーの上に乗って、そこからジャンプをして、空中とびげりポーズをしました。

「アチョーッ。」

と叫びながら、きんに君は空中をとびました。ブルースリーのような、見事なとびげりでした。教室の天井に頭がつきそうなくらいでした。しかし、着地のしゅんかんに、変な音がしました。

「バキッ。」

おそろしいことに、きんに君の足は、
つづく

おちょうしものきんに君。そのきんに君の足が、とんでもないことに。こんな友達の大ピンチに、ある人が立ち上がります。

次回予告 きんに君を助けたのは

